午後３時19分再開

○議長（浅尾静二君）　休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君）　16番実藤輝夫でございます。

本日の一般質問の最後になりました。これまで、いろいろな角度から、とりわけ財政と今後の朝倉市が抱える事業について取り上げてまいりました。

国の内外を見ますと、去年の一番の大きな驚きは何と言ってもアメリカ大統領選におきましてトランプ氏が新大統領になったということではないかと思います。おおよそのメディア、国内外の評価は最初はもう本当に泡沫候補であったといわれておりましたが、みるみる共和党の候補となり、クリントン民主党候補に勝つこと、まさに青天の霹靂のような感じがいたしました。

しかしながら、角度を変えてみますと、果たしてそんなに青天の霹靂だったのか。アメリカという国を少しでも知っている、あるいは歴史的に考察、あるいは現在の国際情勢の中でのアメリカを見るときに、やはり自国の経済の立て直し、生活の安定をどうかしてくれ、こういった意見が水面下で渦巻いていた、こういう見方もできるのではないかと思います。

さて、トランプ氏の就任の是非はさておいて、この日本におきましても、この数カ月、名門、東芝電気、シャープ、そして数年前には王子製紙、現在海外輸出をいたしておりますさまざまな企業は今後どのように建て直していくのか、日夜、会長、社長、取締役、そして担当していく部署の社員一丸となって頑張っている実情であります。

私も夜の番組、カンブリア宮殿、あるいはその他いろいろな情報を見分いたしますが、日本の国そのものが非常に厳しい状況になっておる。本年度、国の累積債務は1,100兆円を超す。そして、日本全体を覆う人口減少、なかんずく、この朝倉市も少子高齢化、そしてまた同じように財政の危機を目前といたしております。私も31歳、昭和54年に議会議席を与えられ、これまで特に財政危機、昭和58年、私とほかの２名の議員さんと一緒に財政再建の会議に出て、その結果、数年後に赤字財政、自主財源の確保に成功いたしました。まさに今、この日本をなかんずく、この朝倉市におきまして、朝倉市議会といたしましても本当に粉骨砕身、身をとして頑張っていかなければならない、このような覚悟できょう登壇をいたしております。

特に、今後大型事業、その他の事業の中で危惧されるのは、もう危惧する段階ではなくて現実になっておりますが、国の補助金が2020年のオリンピックを目前としてそちらのほうに回されておる。そして、現在、朝倉市が計画しておる事業につきましても年々その補助金率は減っておりまして、今後の事業遂行に支障をきたす、こういった状況を真剣に考えていかなければなりません。

一方、買い物難民あるいは足の確保、いろいろな市民が日常生活を送るために少しでもよりよい生活をしたいということで、地域、コミュニティ、その他を通じて要望しているものも、残念ながら、今、財政の逼迫、財源がないという理由で却下される大きな問題を生じている。私はそのように感じております。

これからの朝倉市の行く末が、今回の定例議会に大きく係っている、このような覚悟で今登壇し、発言をいたしております。

以下、質問席より市長、教育委員会にいろいろ質問してまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（16番実藤輝夫君降壇）

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　今、登壇して申しましたように、非常に厳しい財政状況というものを踏まえまして、私は質問してまいります。あらゆる質問の根底には、現在の財政、将来の財政どうなるのか。これが私の基本的な考えの中心になっておりますので、お含みおきをいただきたい。

まず通告どおり、体育館の話をするつもりでしたが、午前中の12番議員のときですか、市長は、財政の見通しについてということで御回答されました。私の見識と違うんですが、財政の見通し、副市長もおりますし、できる限り副市長には体調の関係で質問しないようにしておりますが、そのほかで結構です。財政の見通しというものを出しているのは朝倉市だけですか。まず、これについて市長、どう思いますか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　何かえらい極端な言われ方をしておりますけど、私が存じている限りという話をしたはずです。

少なくとも、私は県議会におりましたけれども、県議会では議会には出していない。もちろん財政当局はそういったものを持っておると思います。しかし、なかったという話をしたまでの話で、朝倉市だけとかそういう断定的なことは言っていないつもりです。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　午前中の11時半前に話があったわけですから、皆さんお聞きになりましたよね。そういうふうにとっている職員もおります。私もそうとりましたけれども。

なぜ、この話をするかといいますと、やっぱり財政の見通し10年間が出てきて、これに基づいて大型事業、これから予定されている事業についての是非を問うていく、こういう考え方ですので、もう一つ、財政計画というのがありますね。副市長、あるいは総務部長。こっちのほうが有名だよね。有名って名が通ってるんだけども、財政の見通しは、市長は勘違いしてて朝倉市だけではなくて、総務省が日本全国の市町村にその取り扱い、方法について資料を出しています。これはもうインターネットでちゃんと見てきていますから間違いありません。それから財政計画、こういう言葉も使っています。だから朝倉市だけが

特別に財政計画ではなくて財政見通しを出したという話ではない。違ったときには言ってください。

総務部長、副市長のかわりに今の話で財政の見通しと財政計画をきちんとしないと、この10年間の試算、１、２、３を出されているのに、これをベースにやったらそれはさっき市長が言ったように、これ、今後どうでもかわるような言い方になってくると、これを基本にして私たちも将来を見ていこうとしているわけですから。こんなやり方で財政計画と財政の見通しというものがどう違うのか。現実的にはこれは財政計画に等しい中身だと。少なくとも私の知識ではそう思える。そこについてはどう思いますか。そしたら、あと市長お願いします。

○議長（浅尾静二君）　副市長。

○副市長（堀内善文君）　財政の見通しといいますのは、私どもがつくっておりますのは一定の条件はまず皆さん方にお示ししていると思います。税収がこういう形になった場合ですという言い方をしておりまして、財政計画というのは、一般的に使われている財政計画とは、そういう見通しにさらにどうしたら今後財政が運営できるかっちゅうプラス分、いろんな行財政改革とか、そういうものを組み込んだものを入れております。今回の財政の見通しは今の状態で一定の条件でこうしたら収入と支出の差がこれぐらいになりますよということがわかるようにわざわざ書いておるところでございまして、財政計画になりましたらそこのところは基金の繰り入れでありますとか、そういうことを入れて収支はそうできる形になろうと思います。

それから歳入におきましても、いろんな考え方がありますので、そのあたりは財政計画の場合はもっと収入をふやすという形も一つの考え方かもしれません。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　現実的には32年、33年まで大型事業の計画が出されているわけです。それに対する財源、これも全て出されています。

市長、これは見通しでこういうものがありますじゃなくて、本来財政っていうのは、１年１年、現実的には現在多くされているのは単年度、ただし単年度だけでは今議会で当初予算審議しますが、来年はどうなるの、再来年はどうなるの、５年先はどうなるの、短期財政計画、中期財政計画、長期財政計画というきちんとしたものを出してやっていくっていうのは非常に厳しい財政状況にある市町村については当然のことなんです、これは。特別に朝倉市が財政の見通しを出した、午前中、12番議員に答弁したような中身ではない。これは私たちも前から、合併したときからずっとこの話はしてきておる。ただそういったことを考えて、この財政の見通しは私から見ると財政計画に等しい中身を含んでいるんだというふうな形で質問をしてまいりたいと思います。

まず第１点、総合体育施設の問題で、今回これ非常に大きな問題なんですが、29年度市長施政方針の中で、「総合的体育施設の工事着手時期については将来の財政状況を見なが

ら計画を見直し延期することも考えまして、実施設計費は平成29年度当初予算に計上しないことといたしました」というふうに出ております。

まず、市長、この財政状況を見ながら計画を見直し、延期するということの具体的な意味を説明してください。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　何度も申し上げているとおりでありまして。（「何度もって私質問してませんよ」と呼ぶ者あり）これは、実は12月議会のときも実藤議員、あるいはほかにも中島議員、それから鹿毛議員等の一般質問のときにも、このことについては、今回みたいに具体的に話していませんけども、そういう考え方ですということは申し述べていたはずであります。

これは、実藤議員に対する答弁でありますけども、読ませていただきます、これは議事録です。「先ほどもちょっと申し上げましたけれども、やはり将来にわたって朝倉市民に対する、いわゆるサービスをある一定の質の確保というものをしなきゃならんということになります。これはもう大事なことだろうと。それを考えた上で、今後こういったいろんな大型事業についても、それと両方を兼ね合わせた中で考えていかなければならないと私は思っております」ということを答弁しております。ですから、そのとおりでありまして、先ほど申し上げましたように、今回新しく出した見込みについても、それまでは、いわゆる通常の投資的経費十何億円にしていたはずです。それを30億円という形で多めにして今度は出させていただいております。それは一つに、やっぱりそういうことも考えた中でそうしたらどうなるかという１つの試算を出させていただいたということですから、当然、申し上げますように市民に対するサービスの質のある一定の確保というものはこれは大前提でありますから、そのことをしたときにどうするか、それを考えたときに、じゃあ今すぐに結論を出すというのは、結論を出すというのは大型事業をすぐ始めるというのは、ちょっと待とうと。そして、先ほど12番議員のときに答弁申し上げましたように、今言われたように、新たに今度は国道322号のあそこのクランクの解消、それに伴う甘鉄甘木駅周辺、あるいは西鉄甘木駅周辺の開発という問題が出てまいりました。これについても、これはいつかということはまだわかりません。これはあくまでも322のクランクの解消がいつから始まるのか。それに合わせた形の事業ですから、これはあくまでも県の事業として、国道ですから国ですけども、実際県の事業として始めますので、これはいつになるかわからん。それに合わせないかんという事情が出てまいる。

あるいは、先ほど申し上げましたように、いわゆる私どもは十文字公園については公園予算、国の、都市局の公園予算の交付金を受けてやろうということで計画をさせていただいております。これについていいますと、先ほど言いましたけれども、国の担当者と話しておるんですが、何度も随分話しました。そのときには東京オリンピックもある、しかしそれよりももっと大きな2019年に開催される、いわゆるラグビーのワールドカップ、これ

はほとんど会場というのが公園内になるんでその金を使わなきゃならんでしょうと。それからそうやって厳しくなる可能性があるという話も受けております。だから、そういうことを総合的に判断して、もうしばらく様子を見た上で、あくまでも体育館というのは、いつもこういうふうにされるけど私もちょっと話させてください、もうちょっと様子を見た上でどうするのか判断しようということで今回は実施設計予算を計上しないという結論に達したわけであります。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　登壇してもう少し言いたかったんですけれど、実際上、朝倉市議会の中にも「一遍決まったんだから、それを何がぐずぐず言いよるとか」とか、「また何で今ごろ言いよるとか」とか言う話が全協の中で私の耳にも入ってくるんです。

先ほどのトランプじゃないけれども、ＴＰＰはもう日本挙げて、政府を挙げて、これに取り組んできた。しかし、現実は非常に厳しい。

また小池百合子東京都知事が登場することによって、これもいろいろ賛否がありましたけれども、大きなオリンピックゲームの３つの会場を精査するということで、最終的には同じようになりましたが、そのことによって約600億円の削減ができた。全体で３兆円といったのが２兆円を下る、そういった状況に今あらゆるところで組織委員会も東京都もその他もＩＯＣもＪＯＣもみんな一丸となってやっている。

ましてや、豊洲におきましては、あれがそのまま行っておれば後で移転して風評被害が出たときにはどうなるのかって、今まさにおもしろい報道がなされています。半分豊洲に行くのが賛成、もう今さら行ってもだめだというのが半分、こういうのが数日前にあっていました。石原都知事も100条委員会という厳しい委員会に呼ばれて、これでいろいろな問題が出てくるんでしょうけども、私たちはやっぱり一遍決まったから、そうじゃなくて、いろんな角度、状況が変わってくる、それによってもう１回見直していく、これは当たり前じゃないですか。まさに今私が質問しているのは、今、市長は非常に力強くサービスを低下してはいけない、当たり前です。私、この問題で何年言ってきましたか。副市長が総務部長、財政課長時代から財政問題ずっとやってきましたよね。うんかすんかだけ言ってください。答弁しなくていいんだから。実際のことを言わないと。どうしたら朝倉市の財政、事業がなるかっていう、本当に３時ぐらいから８時ぐらいまでやったことあるんです、まだ元気なころ。本当にすばらしい課長です、その当時。今は副市長、だから私は本当に体調のことを心配してるんだが。

この体育施設の問題については去年の３月の定例議会で基本設計が予算化されてそれを認めてきました。そのとき基本設計と実施設計を一緒にしたほうが安くなるというようなことでしたんで、そうかいなと思いながらそれはそれでいいからすぐ出てくるんだろうと思ったら、４月の全員協議会で、これは基本設計と実施設計を分離するという話になってきました。それはなぜかというと、その当時、副市長になった堀内副市長が今の財政状況

だと国の補助で満額来るかどうかよくわからんと、財政当局が説明して私が質問したら、フォローして答弁されました。副市長、そうですよね。

私は絶対嘘は言いません。事実しか言いませんから。そのときから、こういう状況が来る、そのとき副市長何て言ったかっていうと、本当に市長の代弁、あるいは朝倉市を背負って答弁してくれたんで、私はそれ以上追及しなかった。それは何かというと、ことしの２月になって国の交付金が一定整理されてくるだろうと。しかし、現実は非常に厳しいということを言われました。そうだろうと。本音で言われたんで私はそれ以上追及しなかった。もっと言いたかった。でも、やっぱり体育施設建設について朝農跡地は合理的なやり方でしているのか。そして、ここに皆さん方持っておられるような50％の補助金が来る、最低でも25％の補助金が来るという話でした。でもその下に下限はもっと下がることもありますというようなことも書かれているわけです。それを私、指摘しました。そのとおりになったんです。

ここで何が問題か。市長が言っているような話ではなく、いや、本当に、これはもう全部ここに資料があるわけだから、市長が首をかしげること自体がこの問題についてしっかりと見てないという気がしてならない。私は全部市のほうが出した資料を使っているわけだから、市の出した資料を使ってこの一般質問をしていますので勘違いしないように。

それで、問題はこの間に朝農跡地のいろんな問題があって、今解体工事へ入っています。

それで、私は去年の４月の段階でこのような状況になろうと私は何回も言った。一般質問でも12月も言ったんだけども、全協の中でも言ってきた。そしたら、体育施設は縮小すべきだと。もしくは今さっき市長が今回出したように、財政状況の中で見直しをしていかないかんことが来ますよと。その言葉の裏返しに市民サービスという言葉が出てくるんだけども、そういうのが見えているときに何をやったか。今どんどん解体しています。私は体育施設が縮小される可能性がある、あるいはその他の事情でこれが中断してしまうこともある、あるいは中止になることもある。そのときに、耐震構造はあるにしても、体育館を、朝農を今解体してあるんだけども、残しておいたほうが、あと有効利用ができる。僕はバレーボール協会の副会長をしてました。あちこち回るんです。バレーボール、中学校も大人の大会も。同じところに２つ施設があるっていうことは３倍の効果をもたらす。多分、スポーツをしている人は知っていると思うんだけども。

だから、いざというときには残しなさいって言ったら、ここにも資料があるんだけれども、解体工事、１区から６区に分けてて３億何千万円ぐらい全部使うんです。それはいろいろありますから、全てその体育館だけの問題ではないにしても、やっぱ今さら全部壊して体育館建てません、そしたらあそこ更地になる。今後何に利用していくか。ハードの面で使ってくれなきゃ何もなかなかできない。私の知恵ではその後どうするのと聞きたいぐらいです。実際聞かないかん、これは。そういった無駄むらをなくすということは事前に１年後、現状を見ながらこれからの国の財政支援、いわゆる補助金がどのような形で来る

のか。それを前提にした事業は確実にそのものが来るというようなことでなければ、さっき今言ったようなことを起こしていく、こういう可能性もある。特に、先ほどから言ってるように、これは現実なんです。知っている人は知っているし、これ知らないで私が言っていることを、あれがあんなこと言いよるばいっていうのは本当に議員とか職員ではあってはいけない。市民のほうがよく知っている。

今、オリンピックで人が足らない、財源が足らない、そして国からの補助金がなかなか各地方自治体に回ってこない、こういった問題を抱えている中でこの体育館をどうするか。

まず重要なことがありまして、１点は先を見越して大型事業、これからの事業は確定するっていうことを前提にしていかないとその時点に来たときに国からの補助金が全てである。さっきの解体なんか25％っていったでしょう、実際要望した金額の幾ら、21.9％です。その後はわからないんです、これ。これは一番、森田市長が知っておかないかんことです。現実はそういうことです。これはもうあなたの当局のほうとの話をぎゅっと煮つめていますからいい加減なことは言っていない。実際に要望額の21.9％、これから先、解体工事も含めて満額来るかどうかわからない。こういう状況なんです。だから、慎重にやっていくということでなければならないというのが１点。

２点目は、これ市長の答弁、新聞社各社が出しているんですけど、今回、設計、朝倉市見送りをしたという中でその理由が、これから先、新市庁舎建設やら秋月小中学校一貫校に加え、先ほど話した甘木鉄道前の国道322、これ上中下というのがあって皆さんも全協でこの前みたように中をとるっていうんですけど、これ322の流れから来るんだけども32億円です、総事業費が。市の持ち出し分が９億円、これはこの試算の中に入っていません。後から試算に入っていない、とにかく先にどんどん言っていきますけども、だから総合的に見ていかなきゃならんのではないですかということが私の根幹です。

だから、市長が先ほどのように自信持って公共サービスを低下したらいかん、当たり前の話です。それを言ってきたんです。だから、きちんと見直して、そして事業展開をしていかにゃいかんのじゃないですかって言ってきたんだけども、それが今度３月議会でこれが出てきた。ということは、特例債の話が平成32年だから急がないかんってこのときまで来たわけです。そうすると、市長、この答弁で、このインタビュー、私たちのときにもそうだけども、体育施設建設、するかしないのか。私たちに何年も提示してきたものでやるのか、縮小するのか、そしてそのときに１つの結論を出さないと、今まで言ってきたことと矛盾すると思う、私は。だから、何年間ぐらい延ばせるんですか、これは。話が長くなりましたんで、市長、答弁お願いします。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　体育館建設については、多くの署名でぜひやってくれという署名が過去にも出ております。約１万名近くの市民の、先ほど12番議員は自分でアンケートとられて市民の意見だという話されたけれども、１万名からの方の、市民の、それで初めて、

やろうかという形でそれでしました。

その中で１つの、やはりどうせやるならそれなりの形でやったほうがいいだろうって、実藤議員も恐らく感じてあったんだろうと思いますけど、それはその時代、その時代で仕方ないことだろうと思うんですけども、朝倉市の体育施設というのが全部が今まで中途半端な形です。これはもう残念ながら。ですから、もう１つあるのが将来の体育施設はどうあるべきかというのを教育委員会で検討してつくられています。その中でいわゆる今ある杷木とそれから甘木、それから弓道場、武道場、全部これは廃止すると。そして、それなりのものをつくろうという形で出発をしております。その中でいろんな意見を聞くなかで、今御提示したような規模のやつをつくりたいという形で今しているけれども、さっき申し上げましたように、もちろんこれは財政の裏づけがないとだめだし、将来にわたって、さっき言いましたように別に偉そうには言っていません。当然のこととして市民サービスの低下を招かんようにしなきゃならんということでやって考えた場合に、これは非常に今ちょっと一旦考えたほうがいいなという結論に達したわけです。ですから、今回は来年度の予算には実施設計費は入れまいという形で。

じゃあ、何年から始めるのかという話ですけれども、これについて、じゃあ何年から始めますと今からは言えません。ただし、２年とか３年とかその間には判断をしなきゃならんだろうというふうに思っています。だから、いつからということは言えないですけども、そのくらいのスパンの中での判断だろうと。そのときに私が市長をしているかどうかはわかりませんけれども。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　先ほど午前中に４番議員が質問した体育館のどれくらいか、規模は、これじゃなくて朝倉というのは比良松中学校のことだろうと思うんだけど、総務部長が答弁してよく聞き取れなかったんだけど、なかなかいいポイントですよ。

これ、オールオアナッシング、全部37億5,000万円でするのかしないのかっていう話じゃ全然ない、今、市長の話は。やっぱり今まで長年やってきた。これは私も全く同じで、私は体育館建設するなとは言っていない。ずっとそれ一貫しとる。ただ適正規模があるでしょうと。だから、現実的に先ほどいったようにそこの勤労青少年もなくなるし、杷木の体育館もなくなる、市立体育館がないというような状況で、確かに私も在籍しているときに、その当時も、１万人の要望があった。私はそれは認めてきたんです。ただし、いつの間にかどんどん大きくなってきて、市庁舎ができないという、まだできるかどうかわからないときに私たちは審議して結論を出したんだけど、37億5,000万円という何もほかに事業がなければそれでもよかったんだけど、その半年後に市庁舎を建設するという話になって、その他の事業が出てくるという話になる。

そういう状況の中で、これは参考でいい、先ほど明らかにされなかった、総務部長ちょっと言ったけども、時間の関係で私言いますと、ちょうど半分ぐらいで体育館建設16億円

ぐらいと試算されていますよね。これ市のほうの先ほど総務部長が言った話ですよ。

それから、グリーンテクノセンター改修とか入れたら合計で20億円ぐらいです。これがいいか悪いかは別として、またこれ審議していかにゃいかんのです。全体の財政的な問題、それから市民サービスの問題、これが実際先ほど試算１をなんで私が言ったかといったら、この中には入っていないんです。財政の見通しの中には試算１は60億円の朝農跡地のほうでやった場合はどうなりますか。

２番目、試算２、やらなかった、ゼロです。体育施設のことです。体育施設をゼロにした場合はこうなります。特例債を使うか使わないかって話なんだけど、全額使うか。

３番目が一番現実的だっていうのは、体育施設を建設しない、これ試算３、今度３月７日の全協でやるらしいんだけど、しっかりと議会はやっていかないかんですよ。３になってきたら、この試算表でいくとそれでも190億円特例債を使っても10億円の基金取り崩して、平成31年からは単年度赤字が出て35年から累積赤字で試算１、２、３全部31年から赤字が出て37年から累積赤字が出るというんです。

だから、こういった中で先ほどの市長の答弁と私の答弁、それから重松議員の質問をあわせれば、やっぱり適正規模の体育館も必要ではないかという考えもあります。私の支援者の中には、あるいはいろんな意見を述べる方にはもう必要ないという意見もあります。しかし、それはそれとして市民の要望というのも聞いていかにゃいかんので、それは最終的にどうしようもなくなればそうなる可能性はないとは言えない。市長、そういうふうに選ぶ可能性だってあるわけだから、さっきの答弁からしても、このインタビューからしても。だから、そういう可能性のある中で何かもう１回見直して、市民の要望に対して応えていく方法はないのかっていうのを本来はこれ12月以前から、さっき市長は考えていたっていうわけです。で、大転換をして、今度の当初予算に入れないっていうのは、大転換ですよ、これは。この間に何が起こったのか。じゃあ、どういう代替案を出してくるのか。本来ならばこういうとこではそういう審議をしないといかんのじゃないですか、これは。

そういう中でこの体育館問題が21年ぐらいからだから７年８年ぐらいずっと前市長のときからこの話が出てきているわけです。本当に体育協会の人たちやらその他市民の人たちが入って、私だけが質問してもなかなか、森田市長もそうだったけど、今別枠で討議しているから、結論が出たらしらせますという形できたわけ。そしたら、ぼんと37億5,000万円というぐらいの大きなものが出てきた。こういった経過です。

それで、市長、この問題ばっかりやるわけにいかんので、これ最後に３年先とかいったら特例債は使うんですか、使いませんか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　特例債については、一つには、新しい市役所建設が一応60億円という試算をしておりますけれども、現実的にどの程度かかるのかによって特例債をその分の余った分をどこに持って行くかによって変わってくるんだろうというふうに思います。

それと、平成31年度から単年度赤字、これ一つの考え方ですけれども、特例債190億円全額使いますと、これは何に使っても一緒です。これは恐らく経過として、今のうちの見込みですると一定の赤字になってくるんだろうというふうに思います。

これをせんということになりますと、特例債の使い道から１から議論しなきゃならんという話になりますんで、それはもうそれでいいんですけれども、一応、私としてはいかに……。（「使うのか使わないのか」と呼ぶ者あり）何にですか。その体育館にですか。それは使う分があったら使いたいと思っています。さっき言ったように。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　だったら平成32年度で特例債の期限が切れるから、さあみんなこの事業は今のうちにしておかないと一番おいしい国の補助の一つですから、特例債は。それが使えなくなるから何もやれかにもやれっていって、なかなか議会議員は反対ができないような状況だったんです。

３年後って言ったらもう特例債申請時期は終わっています。だから、そういった問題も含めて。

それから試算の今全額使わないって言って、数字ですから全額使うと190億円なんだけど、それ160億円っていうのが試算２なんです。そのかわり特別基金を40億円崩すっていう話です。虎の子の特別基金を。これは将来的に自由に使える金が50数億円しかないんです、今。財調基金とか減災基金を外して。外して、減災基金とか財調基金は財政運営のために使うのが一番の目的。二番目は、その他いろいろな事業をするときにそれを使ってもいい、でしょう。間違っていないですよ、私。何十年やってきたんだから。

そしたら、赤字が将来出る可能性がある会社、家、みんな貯金をためておかないかんのです。それは今こういうやり方をするからそれに金を使う、そういう目的は二番目に話す。そのために第一弾としてまちづくり振興基金、地域振興基金、公共施設整備資金、その他４つぐらい自由に使える金で今度財政の財源を確保していこうとしています。今の市長なんか完全に矛盾です。特例債を今まで使える、使える、全部額使う必要はないんだけど、それは事業をするときに190億円あるから全部使えじゃなくて、しかし160億円しか使わなかったら基金使うって言うんです。自分の家のこと考えてください、皆さん。そんなことやりますか。70％の補助が来る金を何で使わないんですか、そしたら。基金とどっちが将来的に朝倉市のためになりますか。だから、試算の３でしょうという話になるわけ。

そういった問題をきちんとやっていないと、これから先の、皆さんもそうだけど、７日の日にどれだけの財政研究があるかは知らんけども、私ほとんどしゃべってますけど全協では財政問題のときも。こういった問題をきちんと整理しておかないと論点が外れてしもうて、当該事業をどうするかこうするか、市庁舎だったらＡ案がいいかＢ案がいいか、それも大事だけど、その総体としての財源確保、将来の市民サービス、これに対してどう私たちはかかわりを持って総合的に考えていくかということでなければ、そしたら全協で何

て言われたと思いますか。きょう、市民の皆さん来ておるから。それは問題が違うじゃないかって、きょうはA案かB案かをいう、そんなことを全協でやりますか。ある程度執行権、予算権あるんだから、私たちがやらなきゃいかんことは、これで大丈夫か、先ほど９番議員からも出た、これは前から出て、去年のときに事業増のときに副市長は資料の中に出てきた。今度は出て来てないんです。この特例債を使う事業の中には出てきていない。

私は甘木に住んでいますから、先ほど９番議員も切実にこの必要性を訴えられた。私たちも訴えている。しかし、これは今後の俎上にはまだまだ、乗るはずだったんだけれども財政事情で乗らない。これは皆さん全協やっているから全員知っていると思うんだけど、全協に出てきた、去年。それでこれが引っ込められた。それがきょう言われた。いろんな市民のサービス事業っていうのがあるわけ。それを考えていかなきゃならんというふうに言っています。

その後の時間の関係もありますんで、この大型事業を市長は、体育施設は一定、二、三年先に財政確保ができればやりたいと言っている。ここの矛盾を私は今言っている。特例債では、もうその使えると言っても現実的に、今度はよそのバランスから考えて難しくなる。体育館つくるだけだったらいいんだけど、ほかにもいろいろ後からもやりますけど、いろんな事業があるでしょう。じゃあ、これはどうなるの。先ほど322なんか32億円の中でやって９億円、私は甘木に住んでいるから大いに賛成です。しかし、財政、市会議員という朝倉市から考えたらもっともっと慎重に考えていかないかん部分もある。それをやるならこっちの事業を縮減あるいは中止するとか、いろんなやり方をしていかない限りはあれもこれもできるはずがない。そして、試算がさっき言った見通しか財政計画かは別として、これから予測されるものは非常に厳しいんだということを指摘しておきたいと思います。

もう１つ、今財政の見通しについては１、２でやりましたので、秋月中学校の問題にちょっと移りたいと思います。

私も秋月中学校っていうのは、中学校のときから野球で行きまして、甘木に住んでおるもんですから秋月の城址とかいうのを中学生ではなかなか見ることはありませんでしたけども、野球部で野球の試合をしました。あそこを通って行くんです、杉の馬場をそして瓦坂とか長屋門とか黒門とかあって、本当に、ほお、こんな中学校があるとばいなと、古いときですよ、今から五十数年前ですから。しかし、その景観はいまだに覚えています。そして、私たちのころも甘木中学校は悪そが多かったんですけど、その後も甘木中学校も非常にもめて、私、市会議員になったころあったんだけど、秋月中学校の生徒はそのころからすばらしかった。これ、本当に秋月中学校というのが朝倉市の教育の中ではなくてはならない中学校だとそのころから思いました。

その後、私も社会人になりまして、歴史にかかわって歴史を教えるというような立場、あるいは学ぶという立場で秋月に行きます。本当に春の桜、秋のもみじ、この前新聞に出

ておりましたが、冬の雪化粧、こんなところで本当生徒たちは礼儀正しいです。私が知っている限り。よその中学校が悪いというわけじゃありません。特に秋月中学校はすごい。

で、城址に囲まれたあの秋月中学校がいろいろな事情で移転という話が今進んでいる。これは一人、市民という立場で今話をしています、残してほしいと。しかし、市会議員という形でも、今言いましたように、朝倉市の教育を考えていくときに我が朝倉市の中に城址にたたずむ、そしてまたみんながそこに誇りを持っておる秋月中学校は、教育の一環として残すべきだという考えを持っています。

私は、市長、あなたはその秋月中学校の卒業生ですけど、私のほうが今思いがあるのか、いろんな状況ってまた説明があるのか、簡単でお願いします。思いをちょっと言ってください、移転していく。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　実藤議員のほうが思いがあるというふうな言われ方をしましたけど、少なくとも私は中学３年間自転車で中学校に通っています。

それから、ちょうど今の校舎が建てかわるとき市会議員だったというふうに私は記憶しています。

当初は、あの校舎を建設するときに鉄筋でいこうという話があったんです。で、その当時、塚本前市長のお父さんが市長だったと思いますが、そのときにもお願いして、ぜひ秋月中学校については城址にふさわしい木造風でやってくれということで今の校舎が建ったという経緯もあります。

そういうことを考えたときに、私は今の秋月城址に対しての思い入れというのは、やっぱり卒業生として非常に大きいものがございます。ですから、あるインターネットでは、あれを取り壊してしまうというふうにインターネットで流れたという話も聞いています。そんなばかなこと誰が言いよるかということを言いました。ですから、もし今の中学校が移転をするとするならば、あそこは校舎を残して、また違った活用をしていく。そして、それはもちろん新しくできる学校の子どもたちも活用できるような形をしていく。

やはり一番大事なことというのは、子どもたちにとって本当にいいのがどっちなのかということなんです。そこを議論してくださいと、この前ちょっと言われましたね、私が言やいいって、あれは市政報告会でその話をしたんです。ですから、そういうことです。私の考えとしてはそう思っています。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　やっぱり市長は私よりも数倍の秋中に対する思い入れはあるはずです。それは３年間、雨露の中で天気の日もスポーツをしながら歌を歌いながらいろんなことをやったんでしょう。今でも恐らく森田市長の中には思い出というものがたくさんあるし、同窓生とも会えばその時代の話をされるんでしょう。それこそまさに教育の根幹ですから。歳をとっても母校を語る、これが教育長がこの前この一般質問の中で質問された

ときに答弁された心情ではないかというふうに私は思っています。

きょうの視点は、私は小中一貫教育、あるいは義務教育学校が是か非かとかいう話の視点ではなくて、個人的にあるいは朝倉市会議員としては、秋月中学校は残すべきだ、残したい、この一念であります。

もう一つは、先ほどから言っていますように財政というものを見たときに、今すぐ、あと数年後に何が何でも無理やりにでもこれをやっていかないかんことなのかということを、恐らく今推進しておる人が聞いてて何を言いよるか今さら、やから今さらなんです、今さらですよ。ＴＰＰも今さらでしょう。豊洲も今さらでしょう。中身全部違うけど考え方は一緒。状況が変わってきた体育施設、何で今出さないのこれ。状況が変わったからでしょう。誰か言いなさいよ。今さらそんなこと言うなって、もう決まっとるやないか体育施設建設はって言ってほしい。そういうふうに言われてきたんだから、私たちは。

だから、この秋月中学校が小中一貫教育としていいか悪いか、どうするかこうするかの論議しか。全協では皆さん、そうですよ。議会のほうで、今論議されているのはそればっかり。

でもこの中に、基本計画の中にどういう学校の計画があるか、実際知っている人が何人おりますか。私も残念ながら、恥ずかしながら100承知していない。この前教育委員会と行って、説明を受けて初めて、一番最初のときはスムーズにいっている、地域の話だ、だからこれを認めてほしいと言われたときに、反論したり、あるいは聞いたりする材料がなかった。

だから、学校問題というのは基本的には２つある。一つは地域性があって地域の特性を生かした地域の人たちが誇りを持てるような学校を建設していく、校舎を建設していく、中身を入れる、教育内容をしていく、これが一つ。もう一つはそれだけではないです。朝倉市全体に考えたときにそういうやり方が、こういう考え方が是か非かということを考えていかなかったら議会なんて要らないじゃないですか。決して否定しているんじゃないです。私、この前、観音山へ連れて行ってもらった。昔から観音山知ってるけど。観音山を削って造成してあそこに屋外施設をつくるというんです。それも一つの考え方だろうけど、観音山っていう名前、歴史を知っている人は知っていると思うんだけども、なかなか地元の人も知らないんだけど、観音様の昔からのいわれがあるとか、いろんなことをいわれています。で、私も聞いていると先祖様からやっぱりそういうことで売るなとかいわれた、本当かどうか知りません、それは。でも、一人の市会議員として全体を見たときにやっぱりそういう歴史的なもの、あるいは小学校へ行っている現在の子どもたち、あるいは昔そこで遊んだ子どもたち、ちょうど私、その観音山との間にステージができているんです。私の知り合いから先輩から呼ばれて、これつくるからって、私も協力して、協力っていったって頑張ってくださいって話ですが、非常に今見たら地形的はいいんだけど、利用されていないんじゃないかなと思うんだけど、観音山のところです。

子どもたちもいろいろやっぱり思いがあって、あそこ、秋月小学校すばらしい、一つは、校舎はステレオタイプっていって決まったようなやり方なんだけど、周りね。周りは本当に森の校舎ですよ、山の校舎。この甘木、朝倉の中にそんなにたくさんありますか。課長、少ないですよね。でしょう、そんなにないと思います。やっぱりきちんとした学校がそれぞれの地域性があっていいんだけども、だから、どっちがいいかとかじゃなくて地域、これが国の指針でしょう。これ教育委員会からもらった資料によると地域に応じたものをつくりなさいっていう話です。

それから、これ、だから何で私がこういう発言をしているかというと、やっぱり秋月中学校のよさ、すばらしさ、これは残すべきであるという考え方が例えどんなに言われてもこの感情は捨てることはできない。

もう一つは、現在の時点で小中一貫校、あるいは義務教育学校という形をとって一体型にする必要性があるのか。私には疑問でならない。これは森田市長にも聞きたい。この教育に携わった、私、三十数年間授業をやってて専門の学校教師等のほどとは言わないけど、現実的にどういう問題が教育、教えていくということのときに出てくるかっていうのは恐らくこの議会の中ではそういないと思います。いろんな問題がある。でも、それは私立中学校とか小学校とか、Ａ、Ｂ、Ｃクラス、能力に応じて分けれるとかいろんな配置ができるとか、自由に、そういうとこだったらいいんだろうけど、公立学校はなかなか難しい。そういう中で教えていく必要があるのか。

小中一貫教育をやりたいんだったら、先ほどの財政の問題からしても特例債の15億円ということになっているんです。その中でもとは17億円あったんだけど、一応縮減して、その中に10億6,000万円の特例債を使ってやるというんです。だから31年度だったんだけど32年度に義務教育学校の申請のために延期しますという方針がある。なんでさっきの体育施設もそうなんだけど、二、三年後につくるという考え方もありますということでしょう。つくるかどうかは別として。そしたら、今いろんな問題があってるのに分離型で一応やってみるということも必要だと。私は義務教育一貫教育を否定はしない。大いにやるべきかということもこれから先ますます検討していきます。しかし、こういった諸般の事情がある中で、何を一遍に、もう今度予算つけて観音山の用地取得して造成しますというふうな形で推し進められて行く。そして、さっきの体育館の解体ではあるまいし、今になって体育館残しとって、私は100％そう思っているんだけども、有効利用のためには体育館は残して、それに対して何か耐震とかあるいは修理とかあるならば、それなりにかけることができる。何十億円もかかりません。

そういったものを前提にして考えたときに、市長、やっぱりこれは総合協議会というのがあって、今、これ市民の皆さんもよく御存じないと思うんですけど、法律改正がありまして、今までは市長部局と教育委員会は別だったんです。やっていくのが。ところが、いろいろな大阪府とか何とかかんとかいろいろありまして、今は教育委員会の教育方針その

他、市長と合議をしまして協議会でやっていくんです。そして財源を持っている、予算を持っているのは市長なんですよね。だから、この前も全協で発言してからいろいろありましたけども、やっぱりそれだけの責任を市長は持っておるということです。

そういう状況の中で、この財政的にもう１回大型事業と今後の事業と市民要望の事業といろいろ勘案しながら見ていく時間的余裕があってしかるべきではないか。

推進派の方が来られていますけど、どう思いますか。私の考え方は一発で蹴りますか。私たちは市民全体に責任があるのですよ。私たち、私は甘木に住んでいますけど、コミュニティの要望、それから12月も言いましたけど、朝倉市の全部のコミュニティがそれぞれの要望を出してなかなか実現していない、金がないって言って。先ほども９番議員が言った、あるいはほかの議員も思いは一緒でしょう。いろいろな要望。

ところが、一方で金がないと言ってしない、一方では無理やりしようとする。こういった論議は今は賛否両論だと思います。私の話を聞いて反論したいと思っても今は私の一般質問ですから。ぜひ議会でやりましょう。全員協議会でやりましょう。あるいは特別委員会つくって財政問題の研究会つくって、きょう、先ほども出ましたけど、昭和58年、赤字再建団体か自主再建団体かのときに私、市会議員で２期生でした。森田市長は１期生でした。そのときに先ほど言いましたように私たちは市とあらゆるところの団体機関と20人ぐらい集まってかんかんがくがくやっていました。その結果、先ほど言ったような効果が出た。ピーポート中ホールはその結果できた。それからもう全部職員の定期昇給ストップも終わった。それくらい議会はやらなきゃ、ただ単にこの問題だけを焦点合わせていいか悪いか小中はいいかどうかっちゅう話ではない。方法としてはいろいろな方法があるじゃないですか。

だから、推進派の人たちもきょう来られていますし、議員の中にもおりますが、だからその中で本当にこの問題が那辺にあるのかっていうことをもう１回原点に帰ってやりましょう、議会は。それやる責任があると思います、私は。もう決まったこと、さっきから言うように。決まったこと、決まりよることやけん何ば言いよるか。さっきの体育施設建設についてそう言っている人言わんですか。これ、私が進めている人に言ったら絶対後ろのほうから横からいろいろなこと出ますよ。市長がこれストップをするかもしれないって言っているから言わないだけですよ。

本来なら私がここで、これ実施設計費も上程されて、そして今度何年度、来年もう進んでいくってやるときに、大半の人たちが賛成ですよ。ところが、これやめるという可能性が出てきた、言わない。それはいかんでしょう、議会としては。やっぱり議会としてはこの問題、体育施設だけではない。この秋月中学校、小学校だけの問題ではない。市庁舎の問題も含めて、特に市庁舎は関心中の関心、これもまた７日の日の全協でやるらしいですけど、こういった問題を全体の中からどうあるべきかというのを見ていかないといけない。そのときは市長は執行権、予算権があるのですよ。俺はこれをやりたいんだ、そしてやっ

ていく。そのかわりこれについてはこうしてくれ、そういった考え方がないと、私たちの、先ほど登壇して言いましたように、朝倉市消滅します。

市長、こういうふうに私も長く話ましたけど、市長としてどういうふうに考えているか見解をお願いします。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　まず、確かに協議会ということで年間に数回、教育委員さん方と会議を持たせていただております。ただ、それは朝倉市の教育の大枠、それから報告を受ける、そしてそれに私が意見を言うという会議ですから、具体的な細かいところまで私がタッチしてどうこうという話じゃございません。そのことは御理解いただきたいと思います。

そして、あわせて先ほど秋月中学校の話も随分ございました。私は秋月中学校に通った人間です。ですから、思い入れはあります。それは親の思いとして、卒業した人間の思いとしてあります。じゃあ、今度新しく、もし義務教育学校というのができて、そこに子どもたちが通うとするならば、その子どもたちはそこに対する思いができるんです。と私は思います。

例えば、実藤議員は旧甘木中学校卒業だと思います。あそこは今、Ａコープとかいろいろできていますね。そのときの思い出、その場所に対しての思い入れがあるはずです。

じゃあ、今の子どもたちっていうのは新しい中学校行ってます。ですから、その思い入れがあります。ですから、それをつくって、それはもう必然的にそうなるだろうと。

それと、もう１つ私は実藤議員と見解が違うのは、私は基本的に学校というのは周りから見えるところにあったほうがいいという考え方なんです。今の秋月小学校、山の上でしょう。おまけに、今立派な緑の中にって言われたけれども、私はそう思っています。しかし、残念ながら、それは秋月地区の小学校が統合するときに３地区の皆さん方がいろんな議論をして最終的にあの場所になったということですから、これはもうやむを得んと思ってます。ですから、できればあそこに新しい義務教育学校ができれば周辺の山林の所有者に了解を得て間伐をして見えるようにしていただきたいという思いも持っています。

ですから、そういった形の中で進めさせていく。そして、恐らく実藤議員もそうだろうと思いますけれども、いわゆる義務教育学校、いわゆる小中一貫について、もちろん実藤議員は何かのときにいい学校をつくればとかいい教育をするのはそれは賛成だという話をされました。当然そのつもりで教育委員会も取り組んでおると思いますし、いい学校を作るんだろうと思います。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　当たり前でしょう。いい学校をつくれ、いい学校をつくろう、みんなそういう考え方をしてて、今進めている人も反対している人もいい学校をつくりたい、いい地域をつくりたい、生徒のためにやりたい、みんな一緒。ただし、そこで考えなきゃ

ならんのは、今そういう状況の中で進めていくのがいいのか、反対するほうがいいのか。これは全体的な問題として捉えていくべきである。それで私ははっきり言っているのは秋月中学校と甘木中学校、問題にならない。秋月中学校のほうがすばらしい、私は甘木中学校卒業生だけども、本当に私の思い出は野球部だけ。あとはほとんどない。旧校舎で高射砲が飛んでたのが向こうにありまして、決して自分の中学校を悪く言うわけではない。そこにはそこのすばらしさがあったわけだけど、秋月中学校と比較したときの話として聞いてください。これはいい学校をつくりましょう。そのときの方法論として秋月小学校に一体型でしなきゃならんのですかと。まずもって一貫教育をするんだったらいろんな角度で賛成、反対があっておるわけですから、分離型という形をとれば、即、秋月中学校を移転しなくても一定の期間、検証できる。そして、それからどうしても一体型でなければならんとなれば、秋月小学校に持って行くのか、秋月中学校に併設あるいは一体型にするのか。今、物理的に不可能かどうかっていう答弁は要らない。生徒が減るということを前提にしてこの話は進んでいるわけだから。そうすると、数年後にキャパシティー、収容人員、収容力の問題が出てきたときに知恵を出すということも考えられる。

教育長、多くは語らなくてもいいですから、私の思いについて一つの選択肢として今あなたたちは進めていますので、答弁がしにくいっちゅうことであればいいです。もうそれで、なかなか難しいと思います。今進めているほうだから。

ただ私はさっき言ったように、今回の当初予算で予算審査特別委員会でやりますけど、通すことになるでしょう、恐らく多数で。でも、これから先、交付金が４億何千万円を見込んでいるんですよ、この秋月中学校の問題で。これが満額来るか、この前聞いたのは教育関係は全額来ますと。本当にそういうことをさっと言えるの。私は厳しい状況があっていろんな問題がある。そしたら、来年度そういうふうなことをやったらいい。去年の、私、３月、４月の全協で今日の体育施設の実情を予測して、１年前にこうなるということを言ってきた人間ですから。

秋月中学校の問題も一貫教育やりましょうよ。それがすばらしいと思うんだったら。私も勉強します。でも、今の現状でやるならば、秋中を残して秋月小学校の観音山もすぐ削らずに満額交付金が来ると、国から。もう一遍造成してしまったら元に戻らないよ、観音山は。皆さん、行ったらいい、あそこに。やっぱりその思いを含めて推進している人も一遍分離型でやってみましょうという話にならんですか。何も今やっていることを全てストップしろと言っているわけじゃない。

もうちょっと、本当、これ時間がもう来ましたんで、そういう考え方について私だけが言っていますけど、どなたか私の考え方についてどう思うか。これは教育長だけに答弁させるのは酷かもしれませんので、キャパシティーの問題はいいよ。部長、小中を秋中に持って行ったらちゃんともう今んとこできませんという話は現在の時点ではいい、それは私は解消していくから。私の思い。

○議長（浅尾静二君）　教育長。

○教育長（宮﨑成光君）　先日、学校現場を見ていただきまして考えになってある状況、教育委員会が言っていることが現場ではどうなっているかというのを見ていただいたということで、大変ありがたく思っています。

全体のこの市議会の中でも出されまして、そのときお願いしましたのは、財政的に厳しい中でこれから先グローバル社会をしたたかに生き抜いてほしいという子どもたちを育てるためには米百俵の心でこの問題を取り組みたいということを述べさせていただきました。

この秋月小中学校が取り組んできましたこれまでの小中連携教育のところで一定の成果を上げましたが、物理的な問題でどうしても越えられないという問題があると。これから先進めるためには、やはり物理的な点を解決しない限り進めないということを結論として出しました。

そこで（発言する者あり）最後だけ、これからの教育は新しい動きにかかってまいります。それで、私は新しい酒は新しい革袋の中に盛るべきだと考えています。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　きょうは教育長は非常にそういう言い方されましたけど、今までの教育長の答弁聞いている限りでは廃校になっていく、統廃合されていく学校の悲しみを私は述べられてきたというふうに思って、余り教育長に追及するような形の質問はしたくないというのがありましたけども。

酒は新しい革袋、それは結構でしょう。私、それ否定しません。ただし、今の状況でレイアウトもはっきりしない。観音山の用地取得も完全にできていない。そして、一方では実施設計費だけをつけて、あるいは今度用地買収をするとき即できれば一気に朝農体育館と同じように解体していく、あるいは造成していく。しかし、この国の予算が満額つくのが来年の２月か３月にある程度想定できる。これを見越してやってもいいではないかというふうに私は言っているわけ。だから、予算がついたからっていって、やっぱり今までも長く延ばして状況を見ながらやってきたという経過もあるわけです。教育にそんなに急ぐことがどこにありますか。皆さん、１年おくれた、だったらこの前で31年度開校が義務教育学校のために32年になった、許せないでしょう、そしたら、１年早くやらないと。やっぱり状況は変わっておるわけです、１年間。義務教育学校にするという法律制度のもとに。

だから、いまだ言っているように財政的なものからいろんなものまで見たら、あと１年延ばしても満額くるということが、あるいは財政的にそれだけ逼迫しないということが議会の中で総意として起こればやったらいいじゃないですか。でも、私は今のところはそうならないという予測をしているんです。一議員がそう言っているからってどうだ、そうでいいです。でも、私は議会議員ですから、自分の思いとしかも７期、いろんな問題とかかわってきました。もう言えば枚挙にいとまがないくらい。普通の経験ではないものをやってきた。

そういうものから見たら、今後予算委員会でこの延長、時間が切れてきますので、またやっていきます。予算の中でやっていきます。

最後に、市長、私が一番大事にしなきゃいかんと思うのが、先ほど学校したんだけども、これ市域３地区の思いは自分たちの地域を浮揚させてくれ、地域振興をさせてくれということではないかと思っています。これが根幹。それで、その中で秋月中学校が廃校になって統合されるというような話が出てきたということがありました。統合しないと教育委員会は言った。

一番大事なのは、先ほど私がるる言っているように延ばすことによってこれから分離型にすることによって検証しながら地域振興にやったらいいじゃないですか。一番最適なところですよ。秋月中学校を持つ秋月地区、安川、今度322が来る、トンネルが来る、上秋月、本当に注目ですよ、ここは。こういうところに人口がふえる。そして、生徒数がふえるような政策をすることが一番大事な根幹ではないですか。15億円の金を使って今すぐやるべきことではない。二、三年、ちょうど32年ごろに道路改修がなされる。こういう形をとるべき。

簡単に市長、時間が来ましたので言ってください。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　教育での地域振興。きょう、12番議員ですか、教育で人を集めるというのがありましたけど、私はこれは余りおもてに出すべきなのか言うべきなのか言うべきじゃないのか迷っていまして、やはり義務教育学校という新しい学校をつくって、その教育、もちろん教育委員会に頑張ってもらう。その教育がすばらしいんだということになれば、これは市内に対する波及効果とこれは外部、じゃあうちの子どもたちは秋月の義務教育学校にやりたいという人が来る可能性だってあるわけです。そういったものをしっかりやってくれということは申し上げております。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　私からするとお金をかけてまでいろんな反対運動があってる中で、もう一歩ゆっくりとやるべきだ。

○議長（浅尾静二君）　16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、３月６日午前９時半から行い、一般質問を続行いたします。

本日は、これにて散会いたします。

午後４時29分散会